

A N N U A L R E P O R T 2 0 1 7

年 次 報 告 書



## ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

### 今井 敬

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため1991年11月1日に設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を行ってまいりました。

2016年には協会設立25周年の節目を迎えたことから、今後の協会運営の指針となる「中長期計画」を策定し、2017年度から計画に沿った事業展開等を進めています。

本書は、2017年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いに存じます。

協会の主要事業である「コスモス国際賞」が25回目の節目を迎えたことに伴い「コスモス国際賞25周年記念のつどい・シンポジウム」を皇太子同妃両殿下のご臨席を賜り、盛大に挙行いたしました。

また、2017年の受賞者としてジェーン・グドール・インスティテュート創設者、国連平和大使のジェーン・グドール博士をお迎えし、授賞式及び受賞記念講演会等を行いました。グドール博士は、タンザニアのゴンベでの野生チンパンジーの研究を1960年に開始、「長期継続野外研究」という野外の動物研究のパラダイムを創出し、野生チンパンジーの生態の解明を通じて人間の本性を描き出しました。また、「ルーツアンドシューツ」という環境教育プログラムを実施されるなど、博士の長期的な視点に立った研究や教育活動は、地球的視点における生命体相互の関係性や統合性の理解を促進するうえで、大きな貢献をしていると評価いたしました次第です

助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業におきましても、有意義な成果をあげることができました。

今後とも、各事業を推進してまいり所存でございますので、皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

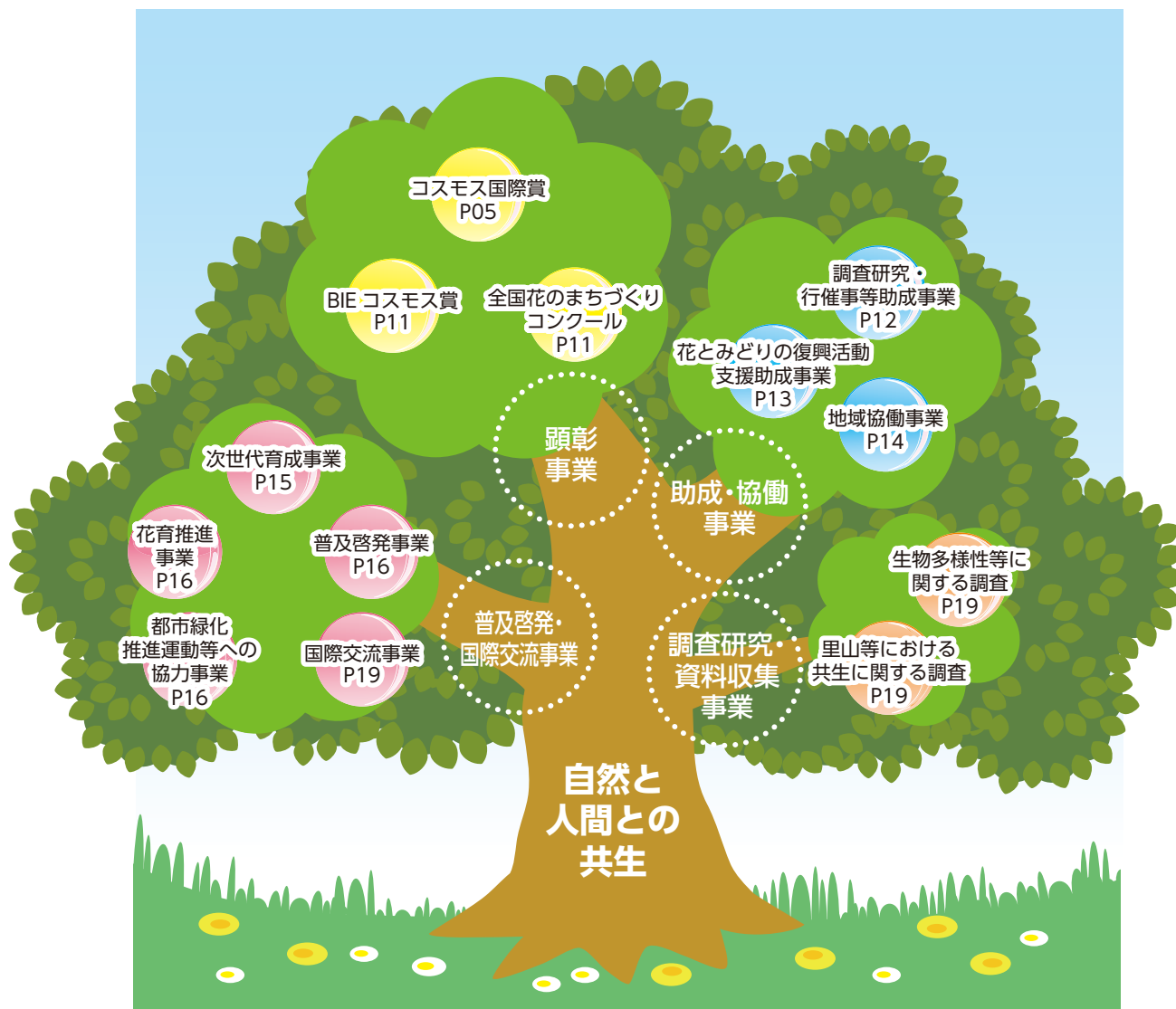
## 皇太子同妃両殿下ご臨席



皇太子同妃両殿下は、コスモス国際賞25周年記念のつどい・シンポジウムにご臨席になった。  
(平成29年11月10日 国際連合大学にて)

## 事業概要

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



### 設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であると考えます。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

顕彰事業

1. コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」という。)の2017年(第25回)受賞者の選考及び授賞式等を次のとおり実施しました。

**受賞者の選考等** コスモス賞委員会(以下「賞委員会」という。)及びコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」という。)を設置し、次の選考作業を行いました。

<2017年(第25回)受賞者の選考・決定等>

第1回、第2回選考委員会(平成29年5月16日、22日)

第3回選考委員会(平成29年6月19日)

第2回賞委員会(平成29年6月19日)

2017年受賞候補者にジェーン・グドール博士(ジェーン・グドール・インスティテュート創設者)が選出されました。

第95回理事会(平成29年7月19日)

賞委員長より選考の経緯及び結果が報告され、受賞者として決定しました。

また、同日午後、国内外の報道機関に対して記者発表等を実施しました。



2017年(第25回)コスモス賞受賞者

ジェーン・グドール博士

(ジェーン・グドール・インスティテュート創設者)

1960年から、野生チンパンジーの研究を続け、その全体像を明らかにするとともに、チンパンジーが住む森を保全するための植林活動や環境教育活動を行った。博士が創案した青少年が担い手となる環境教育プログラム「ルーツアンドシューツ」は99カ国で約15万団体が、その活動を展開している。

<2018年(第26回)受賞者の選考等>

第1回賞委員会(平成30年1月24日)

2017年  
(第25回)  
コスモス賞  
授賞式の開催

国内外からの賓客及び招待者約350名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時:平成29年11月6日(月)午後3時~5時

場 所:いずみホール(大阪市中央区)

出席者:約350名

次 第:主催者紹介 来賓紹介(2006年受賞者スクマール博士、2016年受賞者岩槻博士、鈴木良典農林水産省大臣官房生産振興審議官、大内秀彦国土交通省大臣官房審議官、井出仁雄大阪府都市整備部長、藁田博行大阪市建設局東部方面管理事務所長)

主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介

受賞者入場 賞状、賞金目録、メダル贈呈

来賓祝辞(安倍晋三内閣総理大臣)

受賞者講演 祝賀演奏 閉会



顕彰事業

2017年コスモス国際賞受賞記念講演会

コスモス国際賞授賞式の関連行事として、2017年受賞者のジェーン・グドール博士による講演会を開催しました。

|     | ●京 都  | ●東 京  |
|-----|---|---|
| 日 時 | 平成29年11月7日(火) 午後3時~午後5時   | 平成29年11月9日(木) 午後4時~午後6時                               |
| 場 所 | 京都大学 益川ホール<br>(京都市左京区)  | 首都大学東京荒川キャンパス講堂<br>(東京都荒川区)                           |
| 講 演 | テーマ 「森の隣人・森の旅人」   | —   |
| 講 師 | 2017年コスモス国際賞受賞者<br>ジェーン・グドール 博士(ジェーン・グドール・インスティテュート創設者)                               |   |
| 次第等 | 講師等<br>講演 松沢 哲郎 博士<br>(コスモス国際賞選考専門委員会委員、<br>京都大学高等研究院特別教授)<br>講演 山極 壽一 博士<br>(京都大学総長) | 受賞者紹介<br>林 良博 博士<br>(国立科学博物館館長・コスモス国際賞選考専門<br>委員会委員長) |
| 参加者 | 約170名   | 約300名   |
| 共 催 | 京都大学高等研究院   | 東京都教育委員会  |
| 後 援 | 農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、英国大使館   |   |



## 顕彰事業

### コスモス国際賞 25周年記念の つどい・シンポ ジウム

コスモス国際賞25周年記念のつどい・シンポジウムを、皇太子同妃両殿下のご臨席の下、11月10日、東京都渋谷区国際連合大学ウ・タント国際会議場で開催しました。

日 時：平成29年11月10日(金)午後2時～午後5時  
場 所：国際連合大学ウ・タント国際会議場(東京都渋谷区)  
共 催：国際連合大学サステナビリティ高等研究所  
協 力：東京大学サステナビリティ学連携研究機構  
地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)  
後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、英国大使館  
参加者数：250名

#### 次第

開会、主催者等紹介 司会 須磨佳津江  
主催者挨拶 協会会長 今井 敬

皇太子殿下お言葉  
来賓祝辞

ポール・マデン閣下(駐日英国大使)  
有馬 朗人(武蔵学園長、前コスモス国際賞委員会委員長)

#### コスモス国際賞25年の歩み

岸本 忠三(コスモス国際賞委員会委員長)

#### コスモス国際賞歴代受賞者からのメッセージ

岩槻 邦男(2016年受賞者)  
ヨハン・ロックストローム(2015年受賞者)  
ラマン・スクマール(2006年受賞者)

#### 2017年コスモス国際賞受賞者記念講演

ジェーン・グドール(2017年受賞者)

#### 2015年コスモス国際賞受賞者講演

ヨハン・ロックストローム(2015年受賞者)

#### シンポジウム

##### 開会挨拶

沖 大幹(国際連合大学上級副学長)

##### プレゼンテーション

ラマン・スクマール(2006年受賞者)

##### トークセッション

パネリスト ジェーン・グドール(2017年受賞者)  
ラマン・スクマール(2006年受賞者)  
松沢 哲郎(コスモス国際賞選考専門委員会委員)

コーディネーター 井田 徹治(共同通信社編集委員)



## コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年(第1回) 平成5年  
ギリアン・ブランス 卿  
Sir. Ghillean Prance



英国・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

1994年(第2回) 平成6年  
ジャック・フランソワ・バロー  
(物故)  
Dr. Jacques Francois Barrau



仏国・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の島々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年(第3回) 平成7年  
吉良龍夫  
(物故)  
Dr. Tatuo Kira



日本・大阪市立大学名誉教授

光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年(第4回) 平成8年  
ジョージ・ビールズ・シャラー  
Dr. George Beals Schaller



米国・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年(第5回) 平成9年  
リチャード・ドーキンス  
Dr. Richard Dawkins



英国・オックスフォード大学教授

1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して学界に論争を起こしている。

1998年(第6回) 平成10年  
ジャレド・メイスン・ダイヤモンド  
Dr. Jared Mason Diamond



米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授

医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年(第7回) 平成11年  
呉 征鎰(ウー・チェン・イー)  
(物故)  
Dr. Wu Zheng-Yi



中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長

中国を代表する植物学者。中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行を実現させた。

2000年(第8回) 平成12年  
デービッド・アッテンボロー卿  
Sir David Attenborough



英国・映像プロデューサー

野生生物のドキュメント映像のパイオニア。BBC時代から退社後を含め、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年(第9回) 平成13年  
アン・ウィストン・スパーン  
Prof. Anne Whiston Spirn



米国・マサチューセッツ工科大学教授

都市と自然は対立するものでなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であるとし、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

2002年(第10回) 平成14年  
チャールズ・ダーウィン研究所  
The Charles Darwin Research Station



エクアドル

1964年設立の生物学研究所。南米エクアドル領のガラパゴス諸島で、ゾウガメ、イグアナなど、特異な固有生物の調査研究と保護に当たっている。



2003年(第11回) 平成15年  
ピーター・ハミルトン・レーブン  
Dr. Peter Hamilton Raven



米国・ミズーリ植物園園長

米国を代表する植物学者で、地球の生物多様性の保全を提唱した国際的な先駆者。常に地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年(第12回) 平成16年  
フーリャ・カラビアス・リジヨ  
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学教授

途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年(第13回) 平成17年  
ダニエル・ポーリー  
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授  
漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を収めた。

2006年(第14回) 平成18年  
ラマン・スクマール  
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所 生態学センター教授

ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年(第15回) 平成19年  
ジョージナ・メアリー・メイス  
Dr. Georgina Mary Mace



英国・ロンドン大学自然環境調査会議個体群生物学研究センター所長兼教授  
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行なった。

2008年(第16回) 平成20年  
ファン・ヴェン・ホン  
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授

戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。

2009年(第17回) 平成21年  
グレッチェン・カーラ・デイリー  
Dr. Gretchen Cara Daily



米国・スタンフォード大学教授

生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年(第18回) 平成22年  
エステラ・ベルグレ・レオポルド  
Dr. Estella Bergere Leopold II



米国・ワシントン大学生物学部名誉教授

花粉学者であり自然保護論者として博士の父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年(第19回) 平成23年  
海洋生物センサス科学推進委員会  
The Scientific Steering Committee of  
the Census of Marine Life



海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年(第20回) 平成24年  
エドワード・オズボーン・ウィルソン  
Dr. Edward Osborne Wilson



米国・ハーバード大学名誉教授

アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源、人間の本性、人間の相互作用の研究に努めた。

## 2017年度事業実績

2013年(第21回) 平成25年  
ロバート・トリート・ペイン  
(物故)  
Dr. Robert Treat Paine



米国・ワシントン大学名誉教授

生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、キーストーン種という概念を提唱したことにより、生態学はもとより保全生物学や、一般の人々の生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

2014年(第22回) 平成26年  
フィリップ・デスコラ  
Dr. Philippe Descola



仏国・コレージュ・ド・フランス教授

人類学者として、南米アマゾンに住む先住民アチュアの自然観とそこの自然と関わる諸活動に焦点を当て、これらの綿密な調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱した。

2015年(第23回) 平成27年  
ヨハン・ロックストローム  
Dr. Johan Rockström



スウェーデン・ストックホルム・レジリエンス・センター所長

人類が地球システムに与えている圧力が飽和状態に達した時に不可逆的で大きな変化が起こりうるとし、プラネタリーバウンダリーを把握することで、壊滅的な変化を回避でき、その限界がどこにあるかを知ることが重要であるという考え方を示した。

2016年(第24回) 平成28年  
岩槻 邦男  
Dr. Kunio Iwatsuki



日本・東京大学名誉教授 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長

地球に存在する多様な生物の相互関係を統合的に解明する研究手法の構築により、シダ類をはじめとする植物系統分類学を発展させ、さらにアジアを中心とする生物多様性の保全に多大な貢献を果たした。

### 委員会

#### コスモス国際賞委員会 平成29年4月1日現在(50音順)

- 委員長 岸本 忠三 大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授  
副委員長 尾池 和夫 京都造形芸術大学学長  
委員 浅島 誠 東京理科大学副学長  
委員 池内 了 総合研究大学院大学名誉教授  
委員 磯貝 彰 奈良先端科学技術大学院大学名誉教授  
委員 小山 修三 一般財団法人千里文化財団理事長  
委員 佐々木 恵彦 公益財団法人国際緑化推進センター理事長  
委員 武内 和彦 東京大学サステイナビリティ学連携研究機構長・特任教授  
委員 西澤 直子 石川県立大学生物資源工学研究所教授  
委員 林 良博 独立行政法人国立科学博物館館長  
委員 鷺谷 いづみ 中央大学理工学部教授  
顧問 有馬 朗人 学校法人根津育英会武蔵学園学園長  
顧問 中村 桂子 JT生命誌研究館館長

#### コスモス国際賞選考専門委員会 平成29年4月1日現在(50音順)

- 委員長 林 良博 独立行政法人国立科学博物館館長  
副委員長 中静 透 総合地球環境学研究所特任教授  
委員 秋道 智彌 山梨県立富士山世界遺産センター所長  
委員 池邊このみ 千葉大学大学院園芸学研究科教授  
委員 モンテ・カセム 立命館大学名誉教授  
委員 ケビン・ショート 東京情報大学環境情報学科教授  
委員 野家 啓一 東北大学名誉教授・総長特命教授  
委員 松沢 哲郎 京都大学高等研究院特別教授  
委員 村上 哲明 首都大学東京大学院理工学研究科教授  
委員 村田佳壽子 ワールドウォッチ研究所日本副代表

## 顕彰事業

### 2. コスモス国際賞PR事業

平成29年8月24日から26日に、スウェーデン・ストックホルムで開催された第7回サステナビリティ学国際会議においてロックストローム博士の英語版冊子を配付し、コスモス国際賞を中心とした協会事業の紹介、ビデオメッセージの放映を行いました。



### 3. BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE(博覧会国際事務局:本部パリ)と当該博覧会協会と3者で「BIEコスモス賞」を実施しています。平成29年度は、カザフスタン・アスタナで開催されたアスタナ万博のテーマ、「未来のエネルギー」に関する活動、プロジェクトを顕彰する第5回BIEコスモス賞に参画、支援を行いました。

平成29年9月6日にアスタナ万博会場で開催された選考委員会に参加し、レノト王国の「Solar Energy Collector(太陽エネルギー集積装置)」に賞を贈ることを決定し、アスタナ万博閉会の前日(BIEデー)の平成29年9月9日(土)に開催された授与式にて、賞金2万ユーロを授与しました。



### 4. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画しました。

#### 第27回 (2017年)全国 花のまちづくり コンクール

主催者：花のまちづくりコンクール推進協議会  
(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター)  
入賞/応募数：24点/1,851点  
表彰式：平成29年10月26日(木)、東海大学校友会館(東京都千代田区)

農林水産大臣賞



個人部門



団体部門

国土交通大臣賞



市町村部門



団体部門

#### 第23回 全国花のまち づくり福井大会

主催者：花のまちづくりコンクール推進協議会  
(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター)  
開催日：平成29年6月3日(土)～4日(日)  
場所：福井市にぎわい交流施設ハピリンホール他  
出席者：約400名

助成・協働事業

1. 調査研究・行催事等の助成事業

花の万博の理念の継承発展又は普及啓発のため調査研究、技術開発、活動、行催事を支援する助成事業を実施しました。

平成29年度  
助成事業

平成29年度は34件の事業に助成しました。

| ●事業区分  | ●助成事業名                       | ●助成団体名                      |
|--------|------------------------------|-----------------------------|
| 調査研究開発 | 原環境の保全のための野生動植物のモニタリング調査     | NPO法人生物多様性研究所あーすわーむ         |
|        | ヤクタネゴヨウの調査研究と成果発表シンポジウム開催    | 屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊              |
|        | 植物標本管理のためのプラットフォーム形成事業       | 公益財団法人高知県牧野植物園              |
|        | 洞爺湖ウチダザリガニ捕獲調査活動             | 洞爺湖生物多様性保全協議会               |
|        | 声生研究林内保存木の着生植物群集の保全生物学的研究    | 京都大学・神戸大学 林冠生態学研究チーム        |
|        | 稀少種カワツルモを指標とし瀧湖・龍神池の再生事業     | NPO法人おおいた環境保全フォーラム          |
|        | 富士山の保護上重要な野生植物の生態と分布調査(3年度目) | 富士山自然誌研究会                   |
|        | 東日本大震災被災地での6年の社叢調査研究のまとめ     | 特定非営利活動法人社叢学会               |
|        | 日韓バイカモ保全国際交流サミット             | 特定非営利活動法人グラウンドワーク三島         |
|        | 自治医科大学とちぎ子ども医療センター園芸緑化活動     | 自治医科大学とちぎ子ども医療センター花咲jii     |
| 活動・行催事 | 大阪市立大学国際学術シンポジウム「人と植物の共生」    | 公立大学法人大阪市立大学(シンポジウム実行委員会)   |
|        | 生物多様性保存型里山ビオトープの形成に関する事業     | NPO法人自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会  |
|        | 生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造           | いごま棚田クラブ                    |
|        | かのご里山村・里山資源活用プロジェクト          | かのご里山村                      |
|        | 小学校を拠点とした地域における環境保全と環境教育     | 奈良市立鶴舞小学校「鶴舞エコロジカルネットワークの会」 |
|        | 気仙沼周辺の在来植生・海岸植物の市民調査と保全活動    | 特定非営利活動法人山の自然学クラブ           |
|        | 創意工夫を活かした健康づくりの森と憩いの森事業      | 川又池周辺森林整備研究会                |
|        | 「花と緑でまちを元気に」の活動              | 特定非営利活動法人メリーポピンズの会          |
|        | 「帯広の森」づくり活動                  | 美幌報徳会                       |
|        | 生徒と地域が創る理想のバラ園地域連携事業         | 東京都立園芸高等学校バラ園協議会            |
|        | 四国における特定外来生物ソウシチョウの防除        | 四国自然史科学研究センター               |
|        | 東北被災地障がい者施設の花・果樹苗プロジェクト      | 災害対策ボランティアネットワーク            |
|        | またぎの自然と共生する知恵を学ぶ             | NPO法人白神自然学校一ツ森校             |
|        | 自然の恵みを体感する森林教室               | 特定非営利活動法人吉里吉里国              |
|        | 植物園シンポジウム「江戸時代の妙薬と薬草」        | 公益社団法人日本植物園協会               |
|        | 地域とともにつくる「エソカンゾウのまち・霧多布」     | 認定特定非営利活動法人霧多布湿原ナショナルトラスト   |
|        | 鹿ノ台周辺緑地整備と里山の自然を楽しむ活動        | ECOKA委員会                    |
|        | 伊吹の薬草復活プロジェクト                | 伊吹くらしのやくそう倶楽部               |
|        | 「森と遊ぼう」東北っ子と犬山っ子の自然交流        | 特定非営利活動法人犬山市民活動支援センターの会     |
|        | 地域で親子が生物多様性を体系的に学ぶ体験的環境学習    | つくし野ビオトーププロジェクト             |
|        | オープンフォレスト in 松戸              | オープンフォレスト in 松戸実行委員会        |
|        | オープンガーデンマップを活かした花のまちづくり事業    | さやまっちガーデナー                  |
|        | 日韓中植物バイオテクノロジー三国間合同シンポジウム    | 一般社団法人日本植物細胞分子生物学会          |
|        | 園芸文化をみんなで守ろうセミナー～変化朝顔～       | 公益社団法人園芸文化協会                |



植物標本管理のためのプラットフォーム形成事業



洞爺湖ウチダザリガニ捕獲調査活動



生徒と地域が創る理想のバラ園地域連携事業



またぎの自然と共生する知恵を学ぶ



鹿ノ台周辺緑地整備と里山の自然を楽しむ活動



日韓中植物バイオテクノロジー三国間合同シンポジウム

平成30年度  
助成対象の決定

平成30年度の助成対象を決定しました。

〈公募〉公募期間:平成29年8月1日(火)～9月15日(金)

〈審査〉審査期間:平成29年10月～平成30年1月

〈決定〉助成事業審査会の審査結果は理事長に答申され、助成対象33件を第96回理事会にて決定しました。

委員会

花博記念協会助成事業審査委員会委員 平成29年4月1日現在(50音順)

委員長 丸山 宏 名城大学農学部教授

副委員長 林 孝洋 近畿大学農学部農業生産科学科教授

委員 佐倉 統 東京大学大学院情報学環教授

委員 須磨佳津江 キャスター・ジャーナリスト

委員 永田 莉 イラストレーター・絵本作家

委員 鷺谷いづみ 中央大学理工学部人間総合理工学科教授

2. 花とみどりの復興活動支援助成事業

東日本大震災の復旧・復興を支援するための助成事業を実施しました。

なお、本事業は、阪急電鉄株式会社からの寄附金等により実施しています。

平成29年度  
支援内容

公募期間:平成29年4月10日(月)～5月22日(月)

採択/応募件数:11/21件

助成総額:380万円

| ●団体名                            | ●所在地 | ●内容                   |
|---------------------------------|------|-----------------------|
| 久慈市立小袖小学校PTA                    | 岩手県  | 天與の花を咲かす喜び—小袖プロジェクト—  |
| 特定非営利活動法人スマイルシード                | 宮城県  | 【環境コミュニティ体験】多世代交流美化活動 |
| 特定非営利活動法人チームひくしま 福島ひまわり里親プロジェクト | 福島県  | 次世代応援・ひまわりプロジェクト      |
| 逢瀬さくらの里                         | 福島県  | 震災を忘れない!逢瀬さくら守り育成事業   |
| 特定非営利活動法人しんせい                   | 福島県  | 障がい者と地域を結ぶコミュニティーガーデン |
| 特定非営利活動法人勿来まちづくりサポートセンター        | 福島県  | 防災緑地植樹祭ドングリ採取&ウォーク事業  |
| 特定非営利活動法人パワーアップ支援室              | 岩手県  | 花・陽だまり・心の和みプロジェクト     |
| はなあそび                           | 福島県  | 心の復興を目的とした復興支援活動      |
| ナチュラルギフト                        | 岩手県  | 花とみどりの元気ひろば           |
| NPO法人サンガ岩手                      | 岩手県  | 復興の花壇に集おうプロジェクトⅢ      |
| 花響 HANA YURA                    | 福島県  | 花と緑で街づくり 会津オープンガーデン   |



花響 HANA YURA



特定非営利活動法人しんせい



特定非営利活動法人スマイルシード

委員会

花とみどりの復興活動支援助成事業審査員 平成29年4月1日現在(50音順)

委員 久山 敦 一般財団法人大阪スポーツみどり財団咲くやこの花館館長

委員 長村 智司 一般社団法人フラワーズサイエティー会長

委員 吉田 昌弘 株式会社空間創研取締役会長

助成・協働  
事業

3. 地域協働事業

花と緑の交流  
広場  
(自然と人間との  
共生フェスタ)

助成事業の成果の波及及び団体間の交流促進のため、滋賀県立琵琶湖博物館と共催で「自然と人間との共生フェスタin滋賀」を開催しました。

日 時:平成30年 2月17日(土) 午後1時～午後6時30分

場 所:滋賀県立琵琶湖博物館「ホール」、「セミナー室」(滋賀県草津市)

来場者:約130名

内 容:滋賀県内及びその周辺で活動する過年度助成団体7団体を含む20団体が、「くらし」、「水環境」、「里山・自然再生」の3つのカテゴリーから、事例発表、ポスター展示を行いました。事例発表の質疑応答では、講師の講評も交え、活発な議論が行われました。

共 催:滋賀県立琵琶湖博物館

後 援:農林水産省、国土交通省近畿地方整備局、環境省近畿地方環境事務所、草津市

口頭・ポスター展示団体:文化遺産としての松明を次世代へ送る会、ヨシでびわ湖を守るネットワーク、針江生水の郷委員会、結いの里・椋川、琵琶湖を戻す会、大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa、立命館大学生命科学部自主ゼミ団体 Ritree(緑化プロジェクト)、琵琶湖博物館フィールドレポーター、中生代植物研究会、伊吹くらしのやくそう倶楽部、ポスター展示団体

ポスター展示団体:あわらの自然を愛する会、NPO法人中池見ねっと、近江ウェットランド研究会、滋賀県立琵琶湖博物館はしかけグループびわたん、NPO法人ウエットランド中池見、環境ボランティア草津湖岸コハクチョウを愛する会、びわ湖の森のようちえん～滋賀森のようちえんネットワーク～、ぼてじゃこトラスト、モンゴル森林再生促進研究会、龍谷大学里山学研究センター



歴史の道みどりの  
拠点づくり事  
業

街道を人間の生活と自然の接点と捉え、緑あふれる空間を創造することにより、「自然と人間との共生」という理念の継承発展につなげ、人間にも自然にも魅力的な環境づくりを目指して、旧街道等の歴史的に価値のある道を、自治体等が主導的に構想や計画を立て、地域と一緒に整えていく支援をすることとして公募し、1件の事業を採択しました。採択した事業は、平成30年度に実施します。

普及啓発・国際交流事業

1. 次世代育成事業

花の万博の理念の継承発展のため、コスモス国際賞や協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、屋外での自然観察(フィールド型)教室、講師派遣型セミナーを行うとともに、毎日新聞大阪本社との共催による「小・中学校における生態園づくり」を実施しました。また、幼稚園・保育園児とその保護者を対象とした「鶴見緑地昆虫クエスト大作戦」を実施し、各世代における次世代育成事業を展開しました。

コスモスセミナー  
自然観察教室  
～生まれ生きもの  
好きな子供たち  
2017～

開催日：平成29年8月9日(水)～8月11日(金)  
場 所：兵庫県立奥猪名健康の郷(兵庫県川辺郡猪名川町)  
講 師：三橋 弘宗、山内 健生(兵庫県立人と自然の博物館主任研究員)  
谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事)  
参加者：近畿圏の小学4年～6年生 30名  
共 催：兵庫県立人と自然の博物館  
旅行主催・実施：ワールドツアーシステム(株)  
後 援：大阪府、兵庫県、兵庫県教育委員会、兵庫県立大学、  
猪名川町教育委員会、JT生命誌研究館、日本環境教育学会、  
(一社)日本昆虫学会、(一社)日本生態学会、日本動物行動学会、  
日本昆虫協会



小学校講師派遣

| ● 実施日       | ● 実施校および参加者                | ● テーマ                 | ● 講師                |
|-------------|----------------------------|-----------------------|---------------------|
| 平成29年6月12日  | 豊中市立東泉丘小学校 3年生 82人         | 昆虫について                | 谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事) |
| 平成29年6月28日  | 大阪市立北田辺小学校 3年生 70人         | 虫のからだのつくりや生活の様子などについて | 谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事) |
| 平成29年7月4日   | 大阪市立遠里小野小学校 3年生 34人        | 昆虫について                | 谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事) |
| 平成29年7月6日   | 東大阪市立桜橋小学校 3年生 72人         | 環境に集う動物や植物について        | 谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事) |
| 平成29年7月14日  | 大阪市立大宮小学校 3年生 63人          | 昆虫について                | 谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事) |
| 平成29年9月13日  | 河内長野市立三日月小学校 3年生 118人      | 昆虫について                | 谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事) |
| 平成29年9月21日  | 堺市立東陶器小学校 3年生 126人         | 昆虫について                | 谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事) |
| 平成29年10月4日  | 大東市立南郷小学校 5年生 121人         | 動物の命について              | 長瀬 健二郎(元天王寺動物園園長)   |
| 平成29年10月20日 | 東大阪市立藤戸小学校 5年生 64人         | 動物の命について              | 長瀬 健二郎(元天王寺動物園園長)   |
| 平成29年11月28日 | 高槻市立松原小学校 3年生 94人          | 昆虫について                | 谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事) |
| 平成29年12月13日 | 堺市立三原台小学校 理科栽培委員会5,6年生 32人 | 堺の歴史・景観(風景)について       | 増田 昇(大阪府立大学名誉教授)    |
| 平成30年1月24日  | 大阪市立生野小学校 4年生 25人          | 大和川の自然について            | 谷 幸三((一社)淡水生物研究所理事) |
| 平成30年2月26日  | 奈良市立飛鳥小学校 4年生 97人          | 動物の命について              | 長瀬 健二郎(元天王寺動物園園長)   |



小・中学校に  
おける  
生態園づくり

| ● 学校名(所在地)         | ● 内 容           |
|--------------------|-----------------|
| 寝屋川市立桜小学校(大阪府寝屋川市) | 生命輝く学校づくりプロジェクト |
| 守口市立佐太小学校(大阪守口市)   | 学校生活に寄り添う水辺     |
| 尼崎市立清和小学校(兵庫県尼崎市)  | 「学校まるごとビオトープ」   |
| 神戸市立雲中小学校(兵庫県神戸市)  | ピオランド再生プロジェクト   |



## 普及啓発・国際交流事業

### 鶴見緑地 昆虫クエスト

幼稚園・保育園児とその保護者を対象とした「鶴見緑地昆虫クエスト大作戦」を実施し、自然と触れあう楽しさを親子で体験できる機会を提供しました。

開催日：平成29年9月23日（土・祝）

場 所：花博記念公園鶴見緑地（大阪市鶴見区）

講 師：八木 剛（兵庫県立人と自然の博物館主任研究員）

参加者：約300名

（大阪市鶴見区、城東区など鶴見緑地近隣の幼稚園・保育園の5歳児とその家族）

協 力：兵庫県立人と自然の博物館

鶴見区子ども園ネットワーク



## 2. 花育推進事業

花や緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参画し、関係団体とともに講習会やセミナー等を実施しました。



## 3. 都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間（4月～6月）」および「都市緑化月間（10月）」における都市緑化キャンペーン活動等を都市緑化推進運動協力会に参画し、支援しました。



## 4. 普及啓発事業

花の万博が開催された地元大阪において、基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施しました。

### 大阪都市緑化 フェア2017

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画しました。

開催日：平成29年9月30日（土）～ 10月1日（日）

場 所：万博記念公園お祭り広場（大阪府吹田市）

来場者：約33,000名

主 催：当協会、大阪府、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部



### はならんまん 2017

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に参画しました。

開催日：平成29年10月14日（土）～ 15日（日）

場 所：花博記念公園鶴見緑地（大阪市鶴見区）

来場者：約12,000名

主 催：当協会、大阪市





みどりの  
まちづくり賞  
(大阪ランドスケープ賞)

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第7回みどりのまちづくり賞に参画し、花博記念協会会長賞等を授与しました。

開催日：平成29年11月23日(木・祝)

場 所：花博記念ホール(大阪市鶴見区)

来場者：約60名

主 催：当協会、大阪府、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部



## 5. その他の普及啓発

協賛・後援等

花の万博の理念の普及・啓発のため、各種団体が実施する行催事等を協賛、後援等を行いました。また、各事業の広報等を実施しました。

後援等一覧

| ● 催 事 名(開催時期)                             | ● 開 催 場 所                       | ● 主 催                        | ● 名義等     |
|---|---------------------------------|------------------------------|-----------|
| 平成29年度大阪府花の文化園幼児・小中学生花の絵画展(H30.1.5~2.4)   | 大阪府立花の文化園イベントホール(大阪府河内長野市)      | 大阪府、住友林業緑化・E-DESIGN共同企業体     | 後援<br>会長賞 |
| 第14回2017周防町通り「はなまつり」(H29.5.1~5.31)        | 周防町通り(堺筋~御堂筋間)と大阪市立南小学校(大阪市中心区) | ヨーロッパ村周防町通り商店会               | 後援        |
| 第2回清流の国ぎふ花かざりコンテスト(H29.6.1~10.8)          | 岐阜県全域                           | 岐阜県                          | 後援<br>会長賞 |
| 「ハンギングバスケット&コンテナガーデンショー」(H29.9.26~10.9)   | 花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館(大阪市鶴見区)     | 鶴見緑地スマイル5、(一社)日本ハンギングバスケット協会 | 後援        |
| 水都おおさか森林の市2017(H29.10.22)                 | 近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮公園周辺(大阪市北区)      | 水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会        | 後援        |
| 「しよくぶつえんのハンギングバスケットギャラリー」(H29.10.6~10.16) | 服部緑地 都市緑化植物園池前テラス(大阪府豊中市)       | (一財)大阪府公園協会                  | 後援        |
| 平成29年度「都市緑化月間」(H29.10.1~10.31)            | 全国                              | 国土交通省、都道府県、市町村               | 協賛        |
| ぎふフラワーフェスティバル2017(H29.10.7~10.8)          | 花フェスタ記念公園(岐阜県可児市)               | 清流の国ぎふ花き戦略会議                 | 後援        |
| 第72回日本おもと名品展(H29.11.25~11.26)             | 三原市民ギャラリー(広島県三原市)               | (公社)日本おもと協会                  | 後援<br>会長賞 |
| 街路樹研修会(特別回)「御堂筋80周年記念街路樹フォーラム」(H29.10.31) | 大阪市中央公会堂(大阪市北区)                 | NPO法人おおさか緑と樹木の診断協会           | 後援        |
| 日本・オーストリア庭園文化シンポジウム(H29.11.20~11.25)      | 京都・広島・東京                        | 特定非営利活動法人環境再生                | 後援        |
| 小品盆栽フェア第26回春雅展(H30.3.23~3.25)             | 花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズキホール(大阪市鶴見区)    | (公社)全日本小品盆栽協会                | 後援<br>会長賞 |
| 2018日本フラワー&ガーデンショー(H30.4.20~4.22)         | パシフィコ横浜展示ホールA・B(神奈川県横浜市)        | (公社)日本家庭園芸普及協会               | 協賛        |
| いけばなインターナショナル大阪支部第27回フェスティバル(H30.4.29)    | 大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)             | いけばなインターナショナル大阪支部            | 後援        |
| 第20回「国際バラとガーデニングショー」(H30.5.18~5.23)       | メットライフドーム(埼玉県所沢市)               | 国際バラとガーデニングショー実行委員会          | 後援        |



第2回清流の国ぎふ花かざりコンテスト



第72回日本おもと名品展



小品盆栽フェア第26回春雅展

## 2017年度事業実績

### 普及啓発・国際交流事業

**ホームページ等の運営・管理** 各事業の情報を適宜更新し、アニュアルレポートのバックナンバーも新たに掲載しました。また、Facebookでも情報発信に努めました。



**コスモス国際賞の広報** 最新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成し、授賞式等で配付しました。また、2017年(第25回)受賞者の業績、コスモス国際賞の趣意、構成、授賞式及び記念講演、25周年記念のつどい・シンポジウム等を取りまとめた報告書を作成(2000部)し、国内外の関係者に配付しました。昨年度作成した、2015年の受賞者、ロックストローム博士の業績や活動内容を紹介する冊子の英語版を作成(1000部)し、広報活動に活用しました。



**情報誌の刊行** 協会の事業情報や「自然と人間との共生」に関わる話題を発信する協会情報誌を『KOSMOS』(変形B5判24頁1,000部)の2号、3号を発刊しました。



**情報の提供** 今後開催が計画されている博览会や各種イベント等の主催者に対し、博览会や協会事業情報、写真等の提供を行いました。

|             |     |
|-------------|-----|
| 海外・国・地方自治体等 | 10件 |
| 企業・個人       | 7件  |

**その他広報** 各事業の周知等のため、印刷物を作成し配付等しました。



## 6. 国際交流事業

海外における青少年交流事業の実施や国際園芸博覧会への出展準備を行いました。

### 高校生のための 生き物調査体験 ツアー in 台湾

次世代を担う高校生を台湾に派遣し、自然科学分野の視野を広げると共に、現地の高校生との交流により、国際的な感覚を育成する生き物調査体験ツアーを実施しました。

開催日：平成29年8月1日(火)～平成29年8月5日(土)4泊5日（台風の影響で、2日間日程を短縮）

場 所：台湾:台北市立動物園および東眼山自然教育センター

参加者：日本人高校生17名、台湾人高校生20名 計37名

企画主体：当協会、兵庫県立人と自然の博物館、台北市立動物園、(財)台北動物保育教育基金会

旅行手配：(株)JTB西日本海外旅行西日本支店



### 国際園芸博覧展 協力

中国・北京で2019年4月29日から同年10月7日の会期で開催予定の北京世界園芸博覧会の日本国出展に係る委員会に参加するなど、日本政府の出展準備作業に協力しました。

### ドイツ・ハンブルク での桜の植樹

2017年7月にドイツ・ハンブルクにおいて開催されたG20にあわせて、ハンブルクと我が国の友好を一層深めることを目的に、日本国政府の要請を受けて、日本産の桜をハンブルクに植樹をしました。



## 調査研究・ 資料収集 事業

### 1. 生物多様性等に関する調査

平成28年度に作成した小冊子「日本固有植物に学ぶ自然のしくみと共生の知恵」を活用して、兵庫県立人と自然の博物館と共催で、平成28年のコスモス国際賞受賞者岩槻邦男博士などを招いて、セミナー「固有種のふしぎ」を開催しました。

開催日：平成30年3月21日(水・祝)午後1時～午後4時45分

場 所：兵庫県立人と自然の博物館

講 師：岩槻 邦男(東京大学名誉教授、2016年コスモス国際賞受賞者)

高野 温子(兵庫県立人と自然の博物館主任研究員)

奥山 雄大(国立科学博物館研究主幹)

太田 英利(兵庫県立人と自然の博物館研究部長)

中峰 空(箕面公園昆虫館館長)

参加者：約110名

共 催：兵庫県立人と自然の博物館



### 2. 里山等における共生に関する調査

神戸市の相楽園会館にて平成29年10月14日(土)、日本造園学会関西支部との共催で、「これからの里山のあり方を展望する」をテーマに120名の参加を得て、シンポジウム(公開研究会)を開催しました。



## 組織運営

### 理事会 平成29年度開催実績

|                    | ●開催日              | ●場 所                     | ●議 題   |
|--------------------|-------------------|--------------------------|--|
| 第93回理事会            | 平成29年<br>6月14日(水) | 日本工業倶楽部会館<br>(東京都千代田区)   | 平成28年度事業報告並びに収支決算について<br>定時評議員会の招集について<br>評議員会に提出する評議員候補者名簿(案)について<br>評議員会に提出する理事候補者名簿(案)について<br>評議員会に提出する監事候補者名簿(案)について                   |
| 第94回理事会<br>(決議の省略) | 平成29年<br>6月29日(木) | -                        | 会長(代表理事)、理事長(代表理事)、専務理事(業務執行理事)の選定について   |
| 第95回理事会            | 平成29年<br>7月19日(水) | JAビルカンファレンス<br>(東京都千代田区) | 2017年(第25回)コスモス国際賞受賞者の決定について<br>特定資産の取崩しについて<br>評議員会の招集について  |
| 第96回理事会            | 平成30年<br>3月23日(金) | 日本工業倶楽部会館<br>(東京都千代田区)   | 平成30年度資産運用方針書について<br>平成30年度事業計画及び収支予算について<br>特定資産について<br>平成30年度助成団体の決定について<br>助成事業実施規程の改正について<br>助成事業審査委員会委員の選任について<br>コスモス国際賞委員会委員の選任について |

### 評議員会 平成29年度開催実績

|                     | ●開催日              | ●場 所               | ●議 題  |
|---------------------|-------------------|--------------------|---|
| 第50回評議員会            | 平成29年<br>6月29日(木) | 関西文化サロン<br>(大阪市北区) | 平成28年度事業報告及び収支決算書類の承認について<br>評議員の改選について<br>理事の改選について<br>監事の改選について |
| 第51回評議員会<br>(決議の省略) | 平成29年<br>8月30日(水) | ——                 | 特定資産の取崩しについて  |
| 評議員懇談会              | 平成30年<br>2月7日(水)  | 関西文化サロン<br>(大阪市北区) | 平成29年度事業概要について  |

**中長期計画** 平成28年11月1日に当協会が、設立25周年の節目を迎えたことを機に、事業をさらに充実させ、国際社会への貢献を果たすため、協会の原点である「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念の今日的意義や、記念協会の事業の歩みなどを検証し、継続的かつ発展的な事業を進めていくための「中長期計画」を策定し、第89回理事会及び第47回評議員会に報告しました。骨子は次のとおりです。

I. 中長期計画にあたって II. 中長期計画の基本的考え方 III. 中長期計画における展開について IV. 広報戦略

## 平成29年度決算

貸借対照表 平成30年3月31日現在

単位:円

| 科 目             | 当年度            | 科 目               | 当年度             |
|-----------------|----------------|-------------------|-----------------|
| <b>I 資産の部</b>   |                | <b>II 負債の部</b>    |                 |
| 1.流動資産          |                | 1.流動負債            |                 |
| 現金預金            | 118,901,461    | 未払金               | 22,723,946      |
| 未収収益            | 75,743,584     | 預り金               | 1,360,929       |
| 前払金             | 0              | 賞与引当金             | 2,921,316       |
| 流動資産合計          | 194,645,045    | 流動負債合計            | 27,006,191      |
| 2.固定資産          |                | 2.固定負債            |                 |
| (1)基本財産         |                | 退職給付引当金           | 41,100,400      |
| 基本財産定期預金        | 860,344,700    | 固定負債合計            | 41,100,400      |
| 基本財産投資有価証券      | 29,655,300     | 負債合計              | 68,106,591      |
| 基本財産合計          | 890,000,000    |                   |                 |
| (2)特定資産         |                | <b>III 正味財産の部</b> |                 |
| 記念基金            | 9,784,197,115  | 1.指定正味財産          |                 |
| 退職給付引当資産        | 41,100,400     | 寄付金               | 10,000,000,000  |
| 国際園芸博覧会出展事業積立資産 | 10,000,000     | 基本財産運用益           | 90,000,000      |
| 特定資産合計          | 9,835,297,515  | 特定資産運用益           | 731,610,000     |
| (3)その他固定資産      |                | 特定資産評価差額金等        | △147,412,885    |
| 投資有価証券          | 6,432,000      | 指定正味財産合計          | 10,674,197,115  |
| 什器備品            | 8              | (うち基本財産への充当額)     | (890,000,000)   |
| その他固定資産合計       | 6,432,008      | (うち特定資産への充当額)     | (9,784,197,115) |
| 固定資産合計          | 10,731,729,523 | 2.一般正味財産          | 184,070,862     |
| 資産合計            | 10,926,374,568 | (うち基本財産への充当額)     | (0)             |
|                 |                | (うち特定資産への充当額)     | (10,000,000)    |
|                 |                | 正味財産合計            | 10,858,267,977  |
|                 |                | 負債及び正味財産合計        | 10,926,374,568  |

正味財産増減計算書 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

単位:円

| 科目           | 当年度         |
|--------------|-------------|
| I 一般正味財産増減の部 |             |
| 1. 経常増減の部    |             |
| (1) 経常収益     |             |
| 基本財産運用益      | 6,846,810   |
| 基本財産受取利息     | 6,846,810   |
| 特定資産運用益      | 237,852,457 |
| 記念基金受取利息     | 237,830,419 |
| 特定資産受取利息     | 22,038      |
| 受取寄付金        | 3,000,000   |
| 受取寄付金        | 3,000,000   |
| 雑収益          | 83,501      |
| 雑収益          | 83,501      |
| 経常収益計        | 247,782,768 |
| (2) 経常費用     |             |
| 事業費          | 188,502,680 |
| 役員報酬         | 8,305,500   |
| 給与手当         | 37,311,465  |
| 法定福利費        | 6,237,483   |
| 退職給付費用       | 1,144,691   |
| 職員厚生費        | 290,603     |
| 会議費          | 1,661,805   |
| 旅費交通費        | 8,413,768   |
| 通信運搬費        | 2,731,749   |
| 広告費          | 888,233     |
| 消耗品費         | 1,826,086   |
| 印刷製本費        | 3,144,690   |
| 光熱水料費        | 2,460,979   |
| 修繕費          | 138,348     |
| 役務費          | 15,876      |
| 委託費          | 28,080,952  |
| 賃借料          | 4,735,986   |
| 使用料          | 2,482,365   |
| 保険料          | 202,972     |
| 諸謝金          | 5,962,219   |
| 租税公課         | 14,266      |
| 支払負担金・会費     | 13,850,038  |
| 支払助成金        | 15,162,547  |
| 支払手数料        | 559,331     |
| 顕彰賞金         | 42,689,200  |
| 雑費           | 191,528     |
| 管理費          | 67,820,584  |
| 役員報酬         | 3,559,500   |
| 給与手当         | 29,931,606  |
| 法定福利費        | 5,663,420   |
| 退職給付費用       | 935,809     |
| 職員厚生費        | 237,574     |
| 会議費          | 712,202     |
| 旅費交通費        | 3,605,900   |
| 通信運搬費        | 1,170,749   |
| 広告費          | 380,671     |

| 科目            | 当年度            |
|---------------|----------------|
| 消耗品費          | 782,609        |
| 印刷製本費         | 1,347,725      |
| 光熱水料費         | 1,054,705      |
| 修繕費           | 59,292         |
| 役務費           | 6,804          |
| 委託費           | 12,034,695     |
| 賃借料           | 2,029,707      |
| 使用料           | 1,063,870      |
| 保険料           | 86,988         |
| 諸謝金           | 2,555,237      |
| 租税公課          | 6,114          |
| 支払負担金・会費      | 273,610        |
| 支払手数料         | 239,713        |
| 雑費            | 82,084         |
| 経常費用計         | 256,323,264    |
| 当期経常増減額       | △8,540,496     |
| 2. 経常外増減の部    |                |
| (1) 経常外収益     |                |
| 経常外収益計        | 0              |
| (2) 経常外費用     |                |
| 経常外費用計        | 0              |
| 当期経常外増減額      | 0              |
| 当期一般正味財産増減額   | △8,540,496     |
| 一般正味財産期首残高    | 192,611,358    |
| 一般正味財産期末残高    | 184,070,862    |
| II 指定正味財産増減の部 |                |
| 受取寄付金         | 3,000,000      |
| 受取寄付金         | 3,000,000      |
| 基本財産運用益       | 6,846,810      |
| 基本財産受取利息      | 6,846,810      |
| 特定資産運用益       | 246,861,061    |
| 記念基金受取利息      | 240,991,061    |
| 記念基金投資有価証券償還益 | 5,870,000      |
| 特定資産評価損       | △30,504,142    |
| 記念基金投資有価証券評価損 | △30,504,142    |
| 一般正味財産への振替    | △250,837,871   |
| 一般正味財産への振替    | △250,837,871   |
| 当期指定正味財産増減額   | △24,634,142    |
| 指定正味財産期首残高    | 10,698,831,257 |
| 指定正味財産期末残高    | 10,674,197,115 |
| III 正味財産期末残高  | 10,858,267,977 |

## 財団の概要(平成30年4月1日現在)

|         |  |
|---------|--|
| 名称      | 公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会<br>The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan,<br>1990 |
| 設立趣旨    | 1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。                    |
| 設立年月日   | 1991年(平成3年)11月1日   |
| 公益法人移行日 | 2013年(平成25年)4月1日   |
| 所在地     | 〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号   |

### 評議員 平成30年4月1日現在(50音順)

|     |       |                    |
|-----|-------|--------------------|
| 評議員 | 青木保之  | (学)東洋女子学園理事        |
| 評議員 | 尾崎裕   | 大阪商工会議所会頭          |
| 評議員 | 角英夫   | (特)日本放送協会大阪放送局長    |
| 評議員 | 金田章裕  | (大)京都大学名誉教授        |
| 評議員 | 佐藤友美子 | (学)追手門学院大学地域創造学部教授 |
| 評議員 | 竹内廣行  | 大阪府副知事             |
| 評議員 | 田中清剛  | 大阪市副市長             |
| 評議員 | 土井元章  | (大)京都大学大学院農学研究科教授  |
| 評議員 | 羽田光一  | (公社)日本家庭園芸普及協会会長   |
| 評議員 | 畑中孝晴  | (一財)日本花普及センター評議員   |
| 評議員 | 正木啓子  | (公社)日本都市計画学会関西支部顧問 |
| 評議員 | 増田昇   | (大)大阪府立大学名誉教授      |
| 評議員 | 松下正幸  | (公財)松下幸之助記念財団理事長   |

### 役員 平成30年4月1日現在(50音順)

|      |      |                                |
|------|------|--------------------------------|
| 会長   | 今井敬  | (一社)日本経済団体連合会名誉会長              |
| 理事長  | 角和夫  | 阪急阪神ホールディングス(株)代表取締役会長 グループCEO |
| 専務理事 | 田中充  | 常勤                             |
| 理事   | 今西英雄 | (大)大阪府立大学名誉教授                  |
| 理事   | 奥水肇  | (公財)都市緑化機構理事長                  |
| 理事   | 本間和枝 | (公財)宇治市公園公社顧問                  |
| 理事   | 森本幸裕 | (大)京都大学名誉教授                    |
| 理事   | 和田新也 | (一社)日本造園建設業協会副会長               |
| 監事   | 北山諒一 | 公認会計士                          |
| 監事   | 堀井良殷 | (公財)関西・大阪21世紀協会理事長             |

### 顧問 平成30年4月1日現在(50音順)

|    |      |                   |
|----|------|-------------------|
| 顧問 | 中川和雄 | 大阪日韓親善協会会長        |
| 顧問 | 牧野徹  | (公財)日本住宅総合センター理事長 |
| 顧問 | 三井康壽 | (一財)住宅生産振興財団会長    |

### 参与 平成30年4月1日現在(50音順)

|    |        |                  |
|----|--------|------------------|
| 参与 | 佐々木正峰  | (独)国立科学博物館顧問     |
| 参与 | 中村桂子   | JT生命誌研究館館長       |
| 参与 | 波多野敬雄  | (学)学習院名誉院長       |
| 参与 | 松本洋    | (一財)日本国際協力システム顧問 |
| 参与 | ルイ・サトウ | 在仏建築家            |

## 協会事務局 (TEL:06-6915-4500、FAX:06-6915-4524)

### 〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL:06-6915-4500)  
〈管理運営事務、評議員会・理事会関係、予算・決算、資産運用等〉
- ◆企画事業部 (TEL:06-6915-4516、4513)  
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、広報、フォーラム、セミナー、調査研究・資料収集等〉

## 2018年度(平成30年度)事業計画概要

### 顕彰事業

#### 1. 2018年(第26回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の「自然と人間との共生」という理念に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するための2018年(第26回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成30年度は2018年の受賞者選考及び決定に加え、2019年の選考準備を行います。2018年の受賞者は7月下旬に決定し、11月14日に授賞式を開催します。

#### 2. BIEコスモス賞

博覧会国際事務局(BIE)が実施し、当協会が協力する「BIEコスモス賞」については、コスモス国際賞の国際的PRの浸透や過去5回の効果検証を行い、今後の継続の可否について検討を進めます。

#### 3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に、「花とみどりの国づくり及びまちづくり」を目的として創設された「花のまちづくりコンクール」について、推進協議会に参画し、実施します。

### 助成・協働事業

#### 1. 調査研究、行催事等助成事業

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究」並びに「活動・行催事」等を支援するため、全国公募による助成事業を実施します。

#### 2. 花とみどりの復興活動支援助成事業

被災地において復興支援の活動を行う団体を支援する本事業は、東日本大震災に加えて新たに熊本地震の被災地を対象として、引き続き寄付金を充当し実施します。

なお、平成31年度実施分より、調査研究、行催事等助成事業に統合し実施します。

#### 3. 地域協働事業

地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働して実施する「歴史の道みどりの拠点づくり」については1件について実施するとともに、助成事業成果発表会と緑の交流広場と統合した「花と緑の交流広場」を継続して実施します。

### 普及啓発事業及び国際交流事業

#### 1. 次世代育成事業

協会事業に関係する学者、知識人等を講師として小学校へ派遣する「小学校講師派遣事業」、山野で生き物を調査・観察する「自然観察教室」、毎日新聞社との共催による「小・中学校生態園づくり」、幼・保育園児を対象とした「昆虫クエスト大作戦」を引き続き実施するとともに平成31年度の公募の準備を行います。

#### 2. 花育推進事業

花や緑を児童教育等の中に取り入れることを目的とした「花育活動」の推進のため、花育推進セミナー・交流会、花育ワークショップの開催等を支援します。

#### 3. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」及び住民参画のもと創意・工夫を生かしたまちづくり推進を目的に実施される「まちづくり月間」に協力します。

#### 4. 普及啓発事業

花の万博開催地の大阪で催される「大阪都市緑化フェア」や「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力する他、みどりの美しい景観となっている建物や緑化活動を表彰する「みどりのまちづくり賞」に参画し、実施します。

また、「コスモス国際賞受賞記念講演会」を高校生や一般を対象に開催する他、市民参加型フォーラムを開催します。

広報については、情報誌『KOSMOS』の発刊やソーシャルメディアを引き続き活用し、情報発信に努めます。

#### 5. 国際交流事業

2019年の北京国際園芸博覧会への政府出展に協力する他、高校生を海外の自然に触れさせ現地の高校生との交流を図る海外青少年交流事業「高校生のための生き物調査体験ツアーin台湾」を継続実施するとともに平成31年度の公募の準備を行います。

### 調査研究・資料収集事業

#### 生物多様性等に関する調査

花の万博の理念継承に資する生物多様性の保全や、動植物の生息地や保存等に関する情報収集等を行うとともに過年度作成の小冊子「日本固有植物に学ぶ 自然のしくみと共生の知恵」を活用して、成果を広く発信します。

平成30年度は公益財団法人日本植物園協会等と共催し、国際シンポジウム「東・東南アジアにおける植物多様性保全」(案)を開催します。



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://www.expo-cosmos.or.jp/>

表紙の写真：「バラ」

2017年(第25回)コスモス国際賞授賞式に用いたコサーージュ、ブートニアで、グドール博士の出身国である英国で広く親しまれているバラをモチーフに、デザインしたものです。